

未破裂中大脳動脈瘤に対する塞栓術

Endovascular coil embolizations of unruptured middle cerebral artery aneurysms

赤路 和則¹⁾ 富尾 亮介¹⁾ 谷崎 義生¹⁾ 美原 貫¹⁾ 神澤 孝夫²⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳卒中部門

[目的]未破裂中大脳動脈瘤に対する塞栓術は、分枝に騎乗している広頸瘤が多いこと、開頭 clipping 術が困難ではないことから、良い適応かどうかは疑問である。当院では未破裂中大脳動脈瘤に対する血管内塞栓術選択症例が増加し、2018年では8例(47%、開頭 clipping 術選択症例9例)であった。当院の治療経験より、未破裂中大脳動脈瘤に対する血管内塞栓術の有用性を検討した。

[方法]当院で2000年1月から2018年12月までに血管内塞栓術を施行した中大脳動脈瘤28例30手術を対象とした。年齢は51歳から79歳、男性10例、女性18例であり、瘤の最大径は3.0mmから9.3mmであった。

[成績]全例で塞栓術可能であり、double catheter technique2例、balloon catheter 使用11例、Neuroform Atlas 使用5例であった。術後、穿刺部合併症が2例(後腹膜血腫、仮性動脈瘤)あり、手技に伴う永続性合併症はなかった。30塞栓術の術直後 DSA 所見は5例で complete occlusion、20例で neck remnant、5例で body filling であった。1年後 DSA 所見は、18例中6例で complete occlusion、11例で neck remnant、1例で body filling であった。術後破裂はなく、28例2例(7.1%)で再発を認め、再塞栓術を行った。

[結論]手技に伴う永続性合併症がなく、未破裂中大脳動脈瘤に対する血管内塞栓術の治療成績は良好であった。術後破裂はなく、7.1%で再治療をした。血管内塞栓術が適している症例もあると考えられた。